グローバル・ガバナンス学会

第６回研究大会

開催ご案内

日時：2015 年 4 月 18 日（土）10 時～

会場：南山大学（名古屋キャンパス）

グローバル・ガバナンス学会 第６回研究大会のご案内

早春の候、会員各位におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

グローバル・ガバナンス学会 第 6 回研究大会を、下記のように南山大学・名古屋キャンパスにて 2015 年 4 月 18 日（土）に開催いたしますので、そのプログラムをお届けいたします。

本学会の掲げるグローバル・ガバナンスの概念は、1990 年代初めに提起され、早いもので 20 余年が経過しました。当初は斬新であった概念も、すでに学術研究と実践の現場で定着し、数々の研究上・実践上の成果に結実しており、同時に、その限界も垣間見せています。この概念は、たとえ一般的概念として提示されていても、やはり冷戦終結直後の時代状況と思想を深く刻印していたと思われます。それは、今日の国際社会や国内政治経済の現実の分析、課題への対応にも、依然として有効なのかどうか。新たな現象を包括的に捉え、その本質を鋭く照射するには、概念の運用や分析方法、さらには概念自体や理論的枠組みを再吟味し、今日的な観点から再構築する必要があるのかもしれません。

そこで第 6 回研究大会では、共通論題として「グローバル・ガバナンス論の再構築」を掲げ、理論と現象の双方の観点から多角的に考察する機会を設けます。また、部会「規範研究の分析射程―課題と展望―」では、新たな理論的動向を受けとめた研究を検討し、部会「『保護する責任』をめぐる国際社会の論理と現地の論理―紛争対応のグローバル・ガバナンスの模索―」、および部会「経済制裁とグローバル・ガバナンス」では、今日的な課題に対応した国際規範とその遵守をめぐって、実態的な議論を展開します。特に後者の部会は、海外から著名な研究者を招いて、シンポジウム形式で開催いたします。自由論題においても、極めて斬新な議論が提示されるようです。

研究大会は、会員各位が研究上の自由な対話や交流を展開できる場であり、新たな研究の刺激や着想の芽生える場でもあると思われます。ご多用のことと存じますが、会員各位の積極的なご参加をお願い申し上げます。

（下記のプログラムは、2 月 15 日時点のものであり、内容の変更等は学会ウェブサイトでお知らせいたします。）

2015 年 2 月 15 日

グローバル・ガバナンス学会会長

大矢根 聡

第６回研究大会・プログラム
会　場：南山大学（名古屋キャンパス・R 棟）

・すべてのセッションを学会員のみならず、非会員の方にも公開いたします。
・なお参加費に関しては、学会員は無料です。非会員の学部学生は、学生証の提示を持って参加費無料といたします。
・一般の非会員の方は、500 円をお支払いいただきますようお願いします。

10:00-12:00 部会Ⅰ・Ⅱ

部会Ⅰ「『保護する責任』をめぐる国際社会の論理と現地の論理―紛争対応のグローバル・ガバナンスの模索―」（会場：R 棟 R32 教室）

頻発する地域紛争・内戦に対して、人道保護の観点から国際社会が軍事的に介入する国際規範が成立し、それが世界各地で実践に移されるに至っている。とはいえ、その実効性や正当性をめぐっては、多くの問題が次々に表面化している。すなわち、一方では、国際社会における秩序や国際規範の必要性などの観点があり、他方では、紛争地域の現場における問題解決、安定化の要諦がある。しかし、この両者がしばしば乖離し、解きがたいジレンマが現出していると思われる。本部会では、特に「保護する責任」をめぐる国際社会の論理と現地の論理を、思想・概念や現象の多角的な観点から検討する。

司会者：南山淳（筑波大学）

報告者：大庭弘継（南山大学）
論　題：「未完に終わる『責任』―思惑のズレ―」

報告者：小松志朗（早稲田大学）
論　題：「保護する責任の相対化―介入国の論理と行動、その結果―」

報告者：中内政貴（大阪大学）
論　題：「紛争の国際化と保護する責任―ユーゴ紛争の当事者の視点から―」

討論者：千知岩正継（北九州市立大学）

部会Ⅱ　自由論題（会場：R 棟 R33 教室）

司会者：稲葉千晴（名城大学）

報告者：玉井良尚（立命館大学）
論　題：「国際政治における戦争と水―湾岸戦争におけるアメリカ軍の軍事戦略からの考察―」

報告者：望月裕太（横浜市立大学）
論　題：「ネットワークの諸相―ネットワーク構造体とその集合的作用についての一考察―」

討論者：菅英輝（京都外国語大学）
　　近藤敦（立命館大学）

12:00-13:15　懇親会（昼食）（会場：R 棟 1 階ロビー）

【会費 2000 円】※当日、学会受付にてお申し込みください。

軽食と飲み物（ノンアルコール）をご用意しております。

※キャンパス内のコパン（学生会館）にコンビニ、食堂、コーヒースタンドがあります。（場所や営業時間については p.8 の名古屋キャンパスマップをご参照ください。）

※キャンパス周辺にも山手通り（名古屋大学駅と八事日赤駅の間）などにレストランやコンビニがありますが、会場からは徒歩 5～10 分ほどかかります。

13:30-15:30　部会Ⅲ・Ⅳ

部会Ⅲ「経済制裁とグローバル・ガバナンス」

（会場：R 棟 R32 教室）（英語セッション：通訳なし）

国際規範を逸脱した特定国に対し、国際社会の期待する規範回帰を強制する一手段として、経済制裁が存在する。典型的には、北朝鮮による核開発に関し、核不拡散レジームからの逸脱であるとして、国際社会は経済制裁を行った。民間セクターによる制裁が行われる場合もある。近年では、市民への影響を軽減するために、エリート層に焦点を絞る「スマート・サ

ンクション」も導入されている。相互依存の進展した今日では、経済制裁が対象外の他国に影響を及ぼす場合も多く、その効果には限界もある。同時に、グローバル・ガバナンスの一側面として、規範回帰を促す作用があるのも事実である。本部会では、経済制裁とグローバル・ガバナンスの関連性について、シンポジウム形式で国内外の研究者が検討する。

司会者：TSUBOUCHI, Jun（山梨大学）

報告者：BIERSTEKER, Thomas J.（ジュネーブ高等国際開発研究院）
論　題：Economic Sanctions and Global Governance: overview

報告者：DEGILA, Delidji Eric （リヨン第三大学）
論　題：United Nations Sanctions in Africa

報告者：YAMAMOTO, Takehiko（早稲田大学）
論　題：Why UN sanctions against the DPRK don’t work ?

報告者：TAMAI, Masataka（立命館大学）
論　題：Economic Sanction and Ukrainian Conflict－How European States did and How Russia response?

部会Ⅳ「規範研究の分析射程―課題と展望―」
（会場：R 棟 R33 教室）

グローバル・ガバナンスの関連分野として、近年、国際規範の研究が国内外で活発化している。一見捉えにくい国際規範とその動態を把握し、これを分析する理論的枠組みも開発され、特にコンストラクティヴィズムやコペンハーゲン学派、英国学派、ポストモダンなどにおいて興味深い分析枠組みが提起されている。それらを活用した実証的研究や事例分析は、日本においても盛んになっている。本部会では、こうした研究の最前線を確認し、多様化している理論的枠組みと事例分析の方法を改めて検討し、それらの分析上の射程と検討課題を議論する。

司会者：奥迫元（早稲田大学）

報告者：臼井陽一郎（新潟国際情報大学）
論　題：「ＥＵの対外行動にみる規範政治の諸相―クロスボーダー協力による近隣政策を事例に―」

報告者：塚田鉄也（同志社大学）
論　題：「人の移動の安全保障化と難民の保護」

報告者：阿部悠貴（熊本大学）
論　題：「規範のジレンマと国際機構の発展―ボスニア内戦への NATO の介入を事例に―」

討論者：西谷真規子（神戸大学）

15：45～17：45　共通論題

共通論題：「グローバル・ガバナンス論の再構築」

（会場：R 棟 R49 教室）

グローバル・ガバナンス論が提起されてから 20 余年が経過する。この言葉は、学術的にも実践的にもすでに定着しており、様々な理論的、実態的な研究が積み重ねられてきた。しかし、それと並行して、国際的な現象はさらに変化し、新たな様相と課題が姿を見せており、それらを適確に捉えて分析するためには、グローバル・ガバナンスの概念や理論の意義を再評価し、見直す必要が生じていよう。共通論題では、グローバル・ガバナンス論を理論的に、また国際安全保障や国際経済の実態的変化を踏まえて、今日的な観点から吟味し、研究上の課題と可能性を検討して、グローバル・ガバナンス論の再構築へとつなげる手がかりとする。

司会者：福田耕治（早稲田大学）

報告者：古城佳子（東京大学）
論　題：「グローバル・ガバナンス再考−国際制度の視点から」（仮）

報告者：足立研幾（立命館大学）
論　題：「グローバル・ガバナンス論再考―規範研究の視点から」

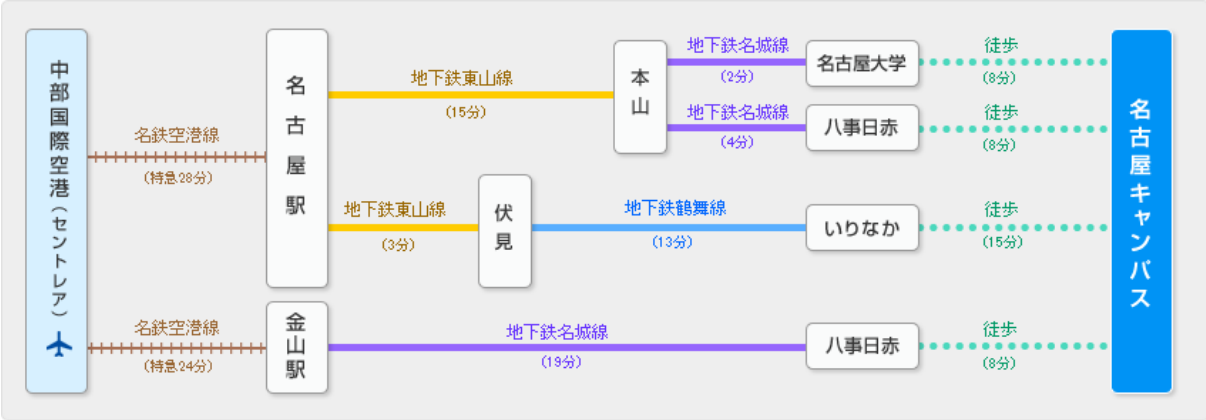
報告者：杉浦章介（慶應義塾大学）
論　題：「トランスナショナル・ガバナンスと法の支配」

討論者：渡邉啓貴（東京外国語大学）

第 6 回研究大会・会場・交通案内

会場：南山大学　名古屋キャンパス（R 棟）
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町 18
http://www.nanzan-u.ac.jp/Information/access.html

会場へのアクセス
地下鉄名城線「名古屋大学」駅 1 番出口より徒歩約 8 分
地下鉄名城線「八事日赤」駅*より徒歩約 8 分　*会場（R 棟）への最寄り駅



【名古屋大学駅から山手通門までのルート】

【八事日赤駅から正門までのルート】

【名古屋キャンパスマップ】

◆R 棟：受付、報告会場、懇親会（1 階ロビー）、休憩室／理事会（1 階会議室）、コイン式コピー機（2 階）

*R 棟の地上階は「2 階」となります。

**飲料の自動販売機は R 棟と図書館の間（屋外）にあります。R 棟内にはありません。

◆コパン（学生会館）：コンビニ（8:00-20:00）、食堂（10:00-14:00）、コーヒースタンド（10:00-14:00）、コインロッカー、紀伊國屋書店（9:45-15:45）

＊大会のプログラムは、本学会のウェブページでも順次更新してご案内いたします。
http://globalgovernance.jp/
また、本学会のウェブサイトにて、参加申し込みが可能です。

＊なお、当プログラムは 2 月 15 日時点の情報に基づいて作成されております。